



平成23年の年頭にあたって

新年明けましておめでとうございます。

新春にあたり、皆様方の本年の御多幸を心より御祈念申し上げます。また、日頃より本県の水産行政および試験研究業務に深い御理解と御協力を頂いておりますことに対し深く感謝申し上げます。

さて、昨年は、「暑」の文字で象徴されるように夏の猛暑に見舞われ、魚の獲れ具合も何時もと違った感の年でした。さらに景気の低迷もあって魚価は上がりず、漁業経営は益々火の車状態になりまさに「暑」の年でもありました。そのような中で唯一救いだったのは大型クラゲが皆無といっても良いような状態で、定置網や刺し網および底曳網漁業に殆ど影響が無かったことでした。クラゲの研究者は、春季に東シナ海の水温が低下したことが大型クラゲの発生が少なかった要因としています。昨年未から、ラニーニャ現象のために日本列島に寒波が襲来して冷え込んでいるので、今年も春季に東シナ海の水温低下により大型クラゲの発生が少ないことを祈るばかりです。しかし、日本海まで春季の水温が低下すると、アジやブリなどの回遊時期が遅れるとともにスルメイカの漁場形成まで影響を受けることが考えられ、クラゲが発生しない程度であることを期待しています。

このように、水産資源の増加・減少や漁期および漁場形成は海洋環境と密接な関係にあり、海洋環境を常に把握しておくことが重要な課題となります。また、福井県周辺の環境を把握するだけでは、ブリやスルメイカ等の広域回遊をする資源には対応できませんし、ズワイガニ等の底魚資源でも子供の時は浮遊生活を行い広範囲に分布しているので、日本海だけでなく東シナ海までの広い範囲で海洋環境を把握することが必要となります。そのために、各府県の水産試験場や国の研究機関が共同で海洋観測を行い、全体を解析する体制が構築されています。

また、同時に資源の状態を把握しておくことも重要な課題です。水産資源は陸上の作物とは異なり、海の中にいるので見えません。そのために、漁獲量の調査や漁獲物の測定等により年齢組成を調べたり、実際に試験操業をして漁獲されない小さい個体の数を調べたり、目の細かい網で卵や稚魚を採集して数を調べることで、常に資源の状態を推測しています。そして、資源を減らさないために、適切な漁獲量や漁獲サイズ等を計算することで、各々の資源ごとに管理手法を提示するようにしています。

今年は、漁業においても所得補償制度がスタートします。この制度では「資源管理」を行う漁業者が対象となり、漁業共済等を活用して所得の安定を図ることになります。したがって、水産試験場では、色々な漁業種類や対象魚種について、より有効な資源管理手法を提示してだけでなく、効果の把握も行うことが重要な業務となります。また、魚価や操業コストなどの経済的な側面を加えた「漁獲管理」という新たな視点も必要と考えます。そのために、水産試験場職員一丸となって努力する所存でありますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

終わりにになりましたが、今年が皆様方にとって良い一年になりますよう、また、本年の操業安全と大漁、さらに、本県水産業界の益々の繁栄を祈念して年頭の御挨拶と致します。

福井県水産試験場長 安達辰典

〔漁の模様〕

2010年12月の県内の総水揚量は1,125tで、2009年同月を259t上回った。カツオ類（2010年；45t、2009年；54t 以下同じ）、サバ類（1t、4t）、スルメイカ〔冷凍主体〕（139t、204t）、セイコガニ（16t、24t）等は下回ったものの、ブリ類（228t、59t）、サワラ類（67t、51t）、マダイ（19t、5t）、アカガレイ（206t、93t）等は上回った。

〔漁業種類別の状況〕

定置網 ……全体で前年を154t上回った。カツオ類、サバ類等が下回ったが、ブリ類、サワラ類、マダイ、ソデイカ等が上回った。

底びき網 ……全体で前年を170t上回った。セイコガニ等が下回ったが、キダイ、アカガレイ、アカエビ等が上回った。

釣り・他 ……全体で65t下回った。ブリ類が上回ったが、主としてスルメイカ〔冷凍〕等が下回った。

〔県内主要漁業の12月の漁獲量〕

(単位：kg)

定置網				底びき網のつづき			
魚種	2010年	2009年	00-09平均	魚種	2010年	2009年	00-09平均
カタクチイワシ	735	25	2,540	タコ類	6,049	3,804	5,500
アジ類	66,780	64,352	56,362	ズワイガニ	47,475	46,739	45,636
サバ類	1,280	4,611	5,145	セイコガニ	15,711	23,921	27,320
マグロ類	3,647	808	1,195	アカエビ	21,373	2,530	12,070
カツオ類	44,830	53,475	33,335	その他エビ	5,948	3,949	5,617
ブリ類	204,059	42,791	54,574	その他	47,647	29,133	67,756
ヒラマサ	1,568	3,777	8,376	合計	395,697	225,222	290,009
シイラ	67	1,093	1,883				
サワラ	67,259	51,068	66,930				
サケ・マス	320	191	252				
マダイ	13,205	1,829	3,796				
スズキ	14,097	10,812	9,542				
ヒラメ	3,217	4,574	2,492				
カマス	2,187	3,737	8,321				
フグ類	776	409	920				
アオリイカ	7,440	10,935	8,937				
ケンサキイカ	1,558	286	520				
ソデイカ	17,847	8,749	26,448				
その他	47,947	81,350	52,945				
合計	498,818	344,871	344,511				
底びき網				釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2010年	2009年	00-09平均	魚種	2010年	2009年	00-09平均
マダイ	2,235	1,475	2,429	アジ類	177	180	216
チダイ	441	272	1,696	マグロ類	5	0	162
キダイ	12,247	5,763	9,963	ブリ類	24,083	16,526	15,551
ヒラメ	1,619	850	1,752	サワラ	27	260	505
アカガレイ	206,450	92,927	80,556	マダイ	3,722	1,929	3,979
その他カレイ	18,444	10,981	15,918	キダイ	4,433	4,186	3,386
カマス	1,866	447	3,752	アマダイ	8,094	5,278	9,530
アナゴ	2,871	1,226	5,262	スズキ	723	761	605
ハタハタ	2,046	300	2,474	ヒラメ	1,696	814	2,075
ニギス	2,239	456	1,042	その他カレイ	145	200	186
ヤリイカ	1,035	448	1,266	アナゴ	234	183	421
				メバル類	703	1,618	1,175
				スルメイカ	138,798	203,628	177,156
				アオリイカ	1,236	1,607	1,522
				ケンサキイカ	1,074	82	1,270
				ヤリイカ	33	63	328
				ソデイカ	8,484	8,125	17,017
				タコ類	6,154	8,153	9,711
				その他	30,639	42,142	40,894
				合計	230,460	295,735	285,688
				総計	2010年	2009年	00-09平均*
					1,124,975	865,828	920,209

* まき網による漁獲量を含む。

〔近府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県；1/1～1/10の定置網漁獲量合計。京都府；12/21～12/31の定置網漁獲量の漁獲量合計。兵庫県；12月21～1月14日の余部・定置網漁獲量合計。鳥取県；12月下旬～1月上旬の1統あたりの漁獲量。)

石川県 …… 定置網 …… ブリ141.8t、マアジ39.2t、ウマズラハギ15.5t、カタクチイワシ15t
 京都府 …… 定置網 …… ソウダガツオ167.5t、ブリ88.4t、ツバス11.7t、サゴシ7.4t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ10.2t、ツバス0.9t、ウルメイワシ878t
 鳥取県 …… まき網 …… マサバ34.9t、ブリ類3t、マアジ20.8t

(瀬戸 久武)

〔海の状態 (12/21~1/20) 〕

神子表面水温……今期間は水温の変動が大きかった。期間の始めと中頃にはかなり高め(過去30年平均より1.0~1.5℃程度高め)の日がみられたが、期間の終わりはやや低め(過去30年平均より0.5~1.0℃程度低め)で推移した (図1)。

米ノ表面水温……期間中、概ね平年並み(過去10年平均より±0.5℃程度)で推移し、やや高め(過去10年平均より0.5~1.0℃程度高め)の日が数日みられた (図2)。

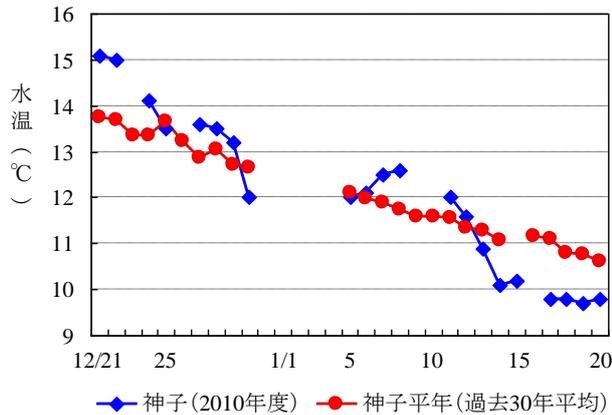


図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移。

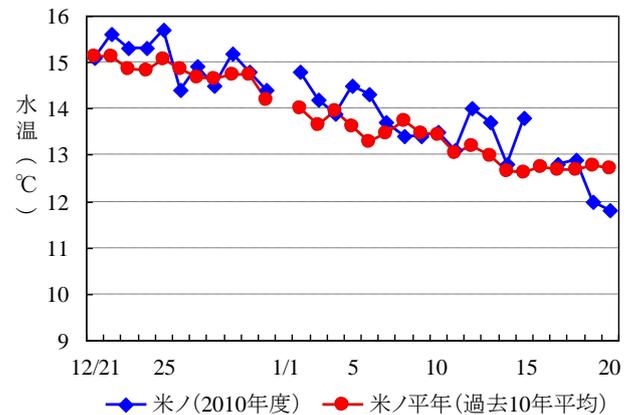


図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移。



平成22年漁期 セイコガニの漁獲実績と“おまけ”



1月10日で漁期が終了したセイコガニの漁獲実績が、福井県底曳網漁業協会により集計されたので、その概要をお知らせします。

漁期中の総漁獲量は109トンで、前年を14トン下回りました。12月の操業日数が前年より大幅に減少したことが影響していると思われます。

単価は前年とほぼ同じ2,633円/kgでした。



(白いマス目は1辺が5cmです)

“おまけ”として紹介するのは、巨大メスガニです。このメスガニは山ガニの中に混じっていたもので、甲幅が122mmもありました。いろいろ調べましたが、おそらくこれまでの記録を更新したと思われます。しかもこのメスガニは未成年だったので、生きていれば最終的にはもう少し大きい「セイコガニ」になったはず。いずれにしても、山ガニに混じっていても全く見劣りしない大きさのメスガニ・・・驚きです。

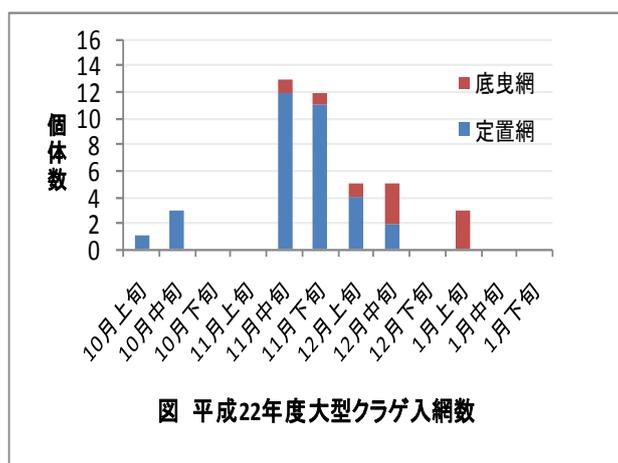
(橋本 寛)

平成22年度大型クラゲ調査結果の概要

本年度は、一昨年の平成21年度のような大量来遊(写真)はなく、漁業に影響をおよぼすこともなく、まずは一安心でした。本年度の大型クラゲの調査結果の概要を取りまとめましたので報告します。

1. 県内の大型クラゲ出現状況

本年は、図のように10月7日に初めて、美浜町の定置網に1個体、12日に美浜町および福井市の定置網にそれぞれ1個体、18日におおい町の定置網に1個体の入網があり、11月に入ると中旬から下旬にかけて散発的に入網があり、嶺北で17個体、嶺南で4個体の入網がみられました。12月は嶺北・嶺南合わせて5個の入網で減少しました。1月に入って1月20日現在入網はなく、これまでの入網数は累計33個体(30~100cm)で非常に少ない状況です。本年は出現時期も遅く、1~2個体/日の入網であったため漁業被害等はほとんどなく、また漁期中途中で操業を切り上げることもありませんでした(現在9カ統が操業中)。底曳網ではズワイガニ漁が解禁となった11月6日以降、これまでに9個体(50~80cm)の入網報告があるのみで、漁業被害等もなく通常通り操業が行われています。



2. 調査概要

(ア) 洋上調査

今期は日本海西部の定置網等での入網報告も少なく、既存の海洋観測調査で、8月から11月に計7回の目視観測を行いましたが見認できませんでした。またLCネット(水深50m~表層、傾斜曳)による分布量調査を、9月~10月に3回実施しましたが大型クラゲは入網しませんでした。

(イ) 陸上調査

県定置漁業協会が県内の定置網に大型クラゲの入網状況について調査し、平成23年1月20日現在で累計21回の報告がありました。また、県底曳網漁業協会からは平成23年1月20日現在で累計21航海の報告がありました。関係漁業者の皆様、ご報告ありがとうございました。



平成21年9月の鷹巣定置の操業風景

3. 情報配信概要

JAFICおよび(独)水研センターの情報をもとに、県調査船の目視調査、分布量調査等を加えた「大型クラゲ情報」を7~11月にかけて関係機関に配信した。また「浜へのたより」235号(8月)~237号(10月)で、大型クラゲ情報を掲載させていただきました。

平成23年度も、県内および他府県・国の情報を的確に収集し、迅速に提供していきます。また近海での大型クラゲに関する情報がありましたら、ご報告いただきますようお願いいたします。

(嶋田 雅弘)